

平成22年度 第1回 市長と語ろう「まちづくりふれあいトーク」

開催日時 平成22年7月8日（木）午後1時30分～

場 所 観光国際交流センター3階研修室

（開会のあいさつ）

【市長】

今日は、お忙しいところお時間を作っていただきましてありがとうございます。

この「まちづくりふれあいトーク」は、昨年からの市民の皆様と一緒にまちづくりを進めていきたい、さまざまな活動を行っていききたいという観点から、各団体と「子育て」や「健康」などのテーマを設けて行ってきたものです。



皆様の取り組みなどを教えていただいたり、市としての考え方を話したりして意見交換をしながら、釧路のまちを少しでも良い形に持っていこうということで実施しております。

本日は、釧路消費者協会様とのまちづくりふれあいトークですが、まず何よりも、消費者協会の皆様には心から感謝を申し上げる次第です。

道内の消費者協会の中でも、釧路消費者協会の位置づけは別格となっております。他の消費者協会も釧路を見習わなければならないのだけれど、そこには至りませんというくらい高い評価をいただいています。これはまさに、皆様のさまざまな活動、いろいろな相談を受けていく中で築き上げた高い評価だと思っており、本当に心から感謝を申し上げ、敬意を表する次第です。

また、リサイクルやごみの問題など、さまざまな問題に取り組んでいただいておりますが、この取り組みを、どうやって市内全体に広げていくのかということも念頭に置きながら、進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

（あいさつ）

【参加者A】

昨年、消費者庁ができ、私たちの活動も身近になったと感じています。私たちは、環境や食、多重債務や詐欺の問題など、ネットワークを作っており、警察と市役所と一緒に取り組んでいます。釧路も振り込め詐欺の被害が結構多いという話もしていただき、少しでも被害防止に努めていきたいと思っています。

また、若い人は独立して釧路から出て行ったときに、マルチ商法に引っ掛かったなどということもあります。釧路短期大学では消費者問題に関心を持っていただいております、毎年短大におじゃまして、釧路から出て行くときにはこんなことに気をつけてというような、情報提供もさせていただいております。

（釧路市民の買い物利便について）

【参加者B】

以前、鉦路市民生協が破綻して閉鎖された店舗が複数あり、また、丸井今井も閉店して買い物不便が生じています。これは、鉦路の問題だけではなく全国的な問題だと思っていますが、今は住民運動をして、お店を出店してもらうような状態にまでなっています。

幸い、やまじゅうの後に雷さとうが出店し、白樺のセオ商店の後継店舗も決まる場所ですが、これからの鉦路のことを考えると、必ず高齢化率が高くなっていきます。予測数値では、平成12年で65歳以上の人は約17%、平成27年には約29%、平成42年には約37%という大変な数字が示されています。そうすると、買い物不便というのはますます大きな問題になっていくと思われまます。

消費者協会としても何かできないかと考え、特別委員会を設置しました。協会の今後の取り組みとしては、和商やコープさっぽろで取り組んでいる無料バスの情報を流していこうと考えています。先日、担当者がくしろバスに行き、どのような無料バスがあるのか調べてきたところ、和商とイトーヨーカドーが提携して、白樺台、新橋大通、鳥取方面をまわっているということです。停留所は今使用しているものを使っています。コープさっぽろは、桜ヶ岡店と貝塚店で無料バスを行っているようでした。

おそらく、この停留所のことなどは、皆さん良くわからないのではないかと思いますので、こういった情報をお知らせしていこうと思っています。

また、宅配サービスについても、市民の方に情報提供していこうと思っています。それから、買い物マップを作成しようと考えています。

あるものをある店にお願いしようということで、コンビニで生鮮食料品などの販売もできないかということで、話し合いを考えています。

買い物不便については、鉦路ではかなり以前から言われていますので、市の方で、考えや対策などがあればお聞きしたいと思います。

【市長】

鉦路でも、いろいろな支援制度や助成制度、融資制度があり、白樺台のセオ商店跡では、1年60万円で最低5年間は出店するというので、計300万円の補助金を出したり、融資制度を用意させていただいたり、企業が出店しやすい環境を整えることを進めています。

基本的には、民間のビジネスというところがありますので難しい部分はあると考えています。

かつて大型店が進出してきたときに、出店反対という話が出てきました。しかし、どんなものでも流れがあつて、いいときと悪いときがあります。地域の商店街にとっては、先ほどお話された高齢化率が進むことや、70歳になって運転免許証の返納も進んでいくことを考えると、大きなチャンスだと思うのです。

企業は、地元の方々がなかなか購入をしてくれないということで撤退するということがあります。購入者と企業とで支え合うというのが本当だとは思いますが、その辺が少し足りないのかなとも思います。

市としては、支援や融資など出店しやすい環境を作っていき、また、出店した企業をみんなで守っていくといった機運を高めることも必要だと考えています。

【参加者B】

一番言えるのは、市民意識の向上だと思います。自分の住むそばのお店がなくなって困るのは結局自分ですから、意識の向上は必要だと思います。

【参加者C】

5年前に、買い物不便ということで高齢者問題に取り組んだときに、買い物したものを持って帰れなくて、配達してもらおうのが大変だということで、マップ作りをしたことがあり、どの地域に配達をしているかということ調べて提供したことがありました。

今後もこういう活動を続けていって、地域の小さい小売店をいかに活用していくかという運動もやっていかなければならないのかなと思っています。調べた結果、小さなお店でも、いくらでも配達は引き受けますという店が釧路市内でもありました。もし買い物に出られなければ、電話で受けて配達しますとか、お客さんと一緒に荷物を届けますよといったお店もありました。もう少しアクションを起こすと、地元の業者さんももう少し意気が上がるのではないかと思います。そういったこともあって、みんなで盛り上げていきたいと思っています。

【市長】

なんとか、そういう形をまちの中で進めていきたいと思っています。だれかが何かをやるというような、日本の国全体が依存型とも言われますが、国、道、市という形ではなくて、地域で行うということが必要だと思います。

今までは、高度成長の中で収入を上げていきましたよとずっと考えていたのですが、そうではなくて、これからは地域活動の中で進めていく必要があります。



例えば、定年を迎えたけれど体は元気なので、何か市民の活動をやっという人が小さい店を守ったりするということもありますし、大きいお店ではなくても、そこで開店できるNPOのような非営利という観点がそこにあたり、そういったことがなんとかしてできないものかと思っています。

市民活動とか、新たなソーシャルビジネスなど進めていますが、大きいものではなくてもそういったものが出てくると、大きく変わります。そうすると、エリアの中で高齢者、要援護という形になっても、町内会やエリアの中で、まとまってやるのか、一週間に2回でも3回でもどうだい、と声を掛けるだけでも、要援護のこともでき、買い物もできるという、そういう機運を高めていきたいということを考えています。

【参加者B】

以前、別の会の来賓で市長が来られたときに、市民活動が活発になれば、釧路市も元気になる、釧路市が元気になる手立てのひとつの方法ではないだろうか、職員と話してきたと、話されていました。

【市長】

誰かが何かをやるだろうというのは、これからは難しいだろうと思っています。

いろいろなところで話していますが、山形から来た学生が釧路に来る際に、釧路に行ったら町内会に入りなさいと親に言われたと言うのです。こういう感覚が釧路には無いのです。こういうものを釧路で作っていくことも必要なのです。そうすると、市役所でやっていることを逆に町内会でやっていくこともできますし、先ほどのマップ作りなんかも、町内会の人たちがうちの町内会ではこういう情報がありますよ、ということができるかと思っています。

【参加者D】

私は釧路のことが大好きな人間なのですが、過去においては、パルプ、漁業、炭鉱と、とても盛り上がった時期がありましたが、今は、多くの店のシャッターが閉まっており、非常に寂しい思いをしています。

帯広の藤丸デパートがバスを出していたときに、若者がとても喜びました。3月の新聞記事にありましたが、3月22日から、釧路市内では、若松町、和商、北大通、MOOの16店舗が協力し合って、体験メニューなどを行っています。和商では、お金をかけないでまちを活性化させようとしています。まちを歩きながら、少しでも釧路を良くしようというグループもあります。私は釧路が本当に好きなので、今後とも、買い物の利便性など、みんなで協力し合いながら活性化に協力していきたいと思っています。

【市長】

中心市街地はいろいろと取り組んでいます。まちなか居住というものがあり、寿町に道営住宅ができ、旭町には市営住宅もできました。もうひとつ、目的がある住宅等を進めていきたいと思っています。

特色のある住宅ということで、高齢者の住宅や子育てに特化した公営住宅です。例えば子育て住宅をまちの中に持ってきます。そこに公営住宅ができたとする、その住宅に子どもがいることによって、周りで子育てや、子どものことを考えたいろいろな活動ができます。

ひとつのことを行うだけではなくて、それに付随することが沸いてくるようなことを検討しています。まずは、子育て住宅をと考えています。そうすれば、周囲に子供用品があったほうが良いとかとなり、子ども用品店を起業されるということも考えられます。

今、中心市街地では若い方も含めていろいろなことを進めていますので、そういう人たちが活動しやすいようにと考えています。

(バスの利便性について)

【参加者B】

平成9年に北海道新聞からコメントを求められた際に、バス料金の設定が不平等という声が上がっており、これに対してどう思うかと聞かれました。

そこで答えているのが、当時、釧路市バス料金対策連絡協議会があったのですが、その会ですら、バス料金に感知するのではなくて、バス事業が存続していくのかどうかの方が問題ですというコ

メントがありました。その当時、すでにバス事業の経営が悪化しているということで、車体広告などを行っています。でも、利便が悪いからマイカーに頼る、マイカーに頼るからバス事業が悪化するといった悪循環があります。これを絶つということはとても難しいのですが、市民の足ということでなんとかならないだろうかと消費者協会では心配しています。

市では補助もしているということですが、バスに対しての支援等はどのように考えていますか。

【市長】

バスに対する補助金は、ルールに基づいて赤字路線に補助をするという形のもので。金額は、平成21年度で約6,700万円、平成22年度で約8,200万円です。路線数は、平成20年度で40路線、平成21年度は35路線が対象となっています。

公共交通活性化協議会を立ち上げて検討をしているところですが、例えば布伏内で乗り合いバスを行うなどしています。

もうひとつ相談しているのが、これまでは路線を決めるのに行政は全く入っていませんでした。バス会社が路線を決めていました。市として、こういったところに路線があったらいいですね、などというものが無かったのです。赤字路線を補助するのはいいのだけれども、路線を決めるにも、こういった路線があったらいいのではないかなど話し合いが必要だと考えています。そうすることによって、地域や町内会からいただいている路線などに対する意見を言えるのではないかと考えています。

【参加者B】

路線については、利用者の方が一番わかっていると思います。

【市長】

そのとおりですが、そういった話し合いが今まで一度も無かったのです。バス会社の経営に深く入るものではないですが、良く相談しながら進めていきたいと思います。利用者はバス会社にも意見を言っているとは思いますが、いろいろと相談をしていこうというものです。

【参加者E】

町内会などの意見を聞いてもらい、話し合いをして路線などを決めるというのは大賛成です。住民や利用者が置き去りにされては困るので、ぜひ進めてほしいです。みんなが利用しやすいような路線にしてほしいです。

【市長】

これからこういった話し合いを進めようかというところです。時間がかかるかもしれませんが、検討しています。

手法もいろいろあると思います。例えば、市役所や社会保険など、色々な行政がありますが、今はうまく接続されていない状況です。住民票を取って、それを使うところまで行くときに、しばらく歩かなくてはならないなどとなっています。午前の時間帯にはそういう路線があるとか、こういうことをPRすることによって、住民票を取って次のところに行くといった風に、その時間

帯でそのときに合わせて動くことかできるのです。いろいろな組み合わせができると思います。バスの配車の問題などもあるとは思いますが、話し合いが必要だと思います。

【参加者B】

Eさんは、夫は家にいるけれども、夫の車を全くあてにしないで、バスを駆使してどこにでも行きます。バスを利用している良い見本です。

【参加者E】

先日、高齢者のバス定期券の交付がありました。一般の人たちはそんなに毎日毎日出掛けるわけではないので、今日から40日間で切れてしまうということに大きな不満があるのです。最初通知が来たときに、交付されてから来年の3月までに40日乗ればいいのか、と思ったのですが、実際は交付された日から40日間なので、みんな不満を持っています。

【市長】

市役所にもたくさんご意見をいただいています。この制度が始まったときは、一括でバス会社から購入して配布していたものでした。ですから、使われなくとも市はバス会社にお金を支払っていました。その後、少しずつ見直しをして金額が変わり、非課税世帯が対象になるなど、変化しながら進めてきました。



再度見直しを行い、高齢者の方々に家にばかりいるのではなく、社会参加をしていただくためにバス定期券を活用してもらい、いろいろな行事や教室などに参加していただくためにあるのです。

目的はバス料金を補助するのではなく、社会参加を促すためのものです。不正に使われるとかいうこともありますし、慣れてしまうと交通費補助と思われてしまいますが、本来の目的は社会参加を促すものです。

【参加者E】

理解はしていますが、趣味やサークルに参加しても、実際は40日間あっても、一週間のうち一日しかサークルが無かったりなので、残りは余ってしまいます。

【市長】

40日間のサイクルに収まるものを、市としても提供していこうというところです。

【参加者E】

近くの会館などで行われるサークルなどは、歩いて行けるのでやはり余ってしまいます。

【市長】

現実にそう使われてきたので、こうなると不便に感じることはわかります。

【参加者E】

知り合いに93歳の方がいて、この方は娘さんが山花温泉リフレでもどこにでも連れて行くんです。今回、バス券補助で3カ月の定期を買いました。山花温泉のゆーゆーパスポートを利用して、温泉に行くといいます。こういう元気な人は、3カ月間有効に使おうといいます。40日間でこれしか使わないという人もいます。そこにも問題はあります。

【市長】

ただ単にバス券を助成するのではなく、助成する以上、違う部署でも参加する機会を作っていくことも考えています。

(食の駅について)

【参加者B】

消費者協会は地産地消の観点から、釧路の食ということに対して10年以上活動しています。主に釧路管内に出向いていろいろと見て回りましたが、以前は、釧路は水産というイメージでしたが、活動を通して釧路は農業もすごいんだということがわかりました。釧路には水産があり、農業も盛んで、とても素晴らしいと感じています。

各地にある道の駅はとても好評でとても楽しいものがあります。その一つとして、地元の生鮮品が置かれ、それを見るのがとても楽しく、自分の好きなものがあれば買ってしまいます。

釧路にも道の駅があつて、釧路の産物を一同に集めたものがあればと思います。北大通にあればとも思いますが、駐車場や建物の問題あつて難しい点もあるかと思うので、既存のMOOなどを活用して、釧路の食を集めた「食の駅」というものがないかと思っています。

【参加者E】

釧路管内を全部回るまでは、釧路の農業は、ハウレンソウやダイコンくらいしか知りませんでした。回ってみて、初めて釧路の農業はこんなにいろいろなものがあるということが良くわかりました。

食の駅というものがあれば、釧路の野菜、牛乳、魚、全部一同に置けるのではないかという発想を持ち続けていました。

【参加者A】

他の地域の消費者協会では、駅や空き店舗を利用して、消費者協会も一緒にお店を出してお汁粉などを販売しています。バスの時間が余っているときに来ていただいて、消費者協会の者と話をしたりしています。こうやって、消費者協会が地域の中にあります。私たちも、いつでも寄ってもらえるようなものを夢見ています。

北大通りにお店を出すとすると駐車場の問題がありますが、北大通は現在、交通量も少ないので、車を常時駐車することはできないのでしょうか。

【市長】

基本的に道路は通行するものですから、特に国道などは難しいものがあります。市道でも一番ネックになるのは地域の人声です。なぜ通行止めにするのかなど、地域の人が不満に思うこともあるのです。こういった部分を整理しなければならないでしょう。

ただ、いろいろな手法があるのではないかと思います。先日、北大通商店街の方々とお話をしたときに、確かに北大通は広いし、さまざまな活用ができるかもしれませんが、一本裏の通りを活用するという考えもいいという話もありました。

MOOではマルシェ・ド・MOOという形でも行っています。また、入舟4丁目でのかもめ市や東部漁協の土曜市も行われています。

いろいろな方法があると思いますが、お店を常設的に置くという方法もあれば、誰かがそれぞれのところで自分たちで値段をつけて行うという方法もあります。季節が来たから、ハウレンソウなどを一週間くらい売ろうということで場所を借りるといったように、地元の食材をPRするという手法もあります。

【参加者B】

産業推進室で行っている食財の日などを見ると、釧路にも色々な地元食材がありますので、地元のものというものを釧路市民に認知してもらえればと思っています。

（資源ごみの分別）

【参加者F】

消費者協会の環境委員会では、ごみの分別などの環境問題について取り組んでいます。私たちの目標としては、3R（リサイクル・リユース・リデュース）を柱に、市民を大切にしていきたいという考えで活動しています。

牛乳パックの分別についてですが、牛乳パックは良い材質で作られていて、雑紙と一緒に排出すると非常にもったいないものです。正しく排出することによって、良いリサイクルの流れになっていくと思います。

先日、市民環境部の方々と懇談をしましたが、お互いに意見を言うことによって、姿勢がわかり、理解を深めたところでした。分別をすることにより、資源の有効活用がされます。分別しないで排出すると資源が有効に使われなくなりますので、私たちはそういったところを大事にしたいと考えています。

【参加者C】

リサイクルという形で呼ばれてから、消費者協会では有効な資源ということで牛乳パックにずっと取り組んでいます。釧路市が資源物回収で雑紙を回収するようになってから、雑紙の袋の中に牛乳パックを一緒に入れてしまっている方が多いというのが現状です。

市のごみ分別方法では、牛乳パックは洗って、開いて、乾かして、縛って、雑紙の袋とは別なところに排出しようとなっているのですが、調査した結果、雑紙の袋に排出しているという状

況が見受けられます。

牛乳パックの回収ボックスを設置していただければ、きちんと分別して出してくれるのではないのでしょうか。牛乳パックは6枚でトイレットペーパー1個になります。

今年から集団資源回収で牛乳パックも対象となったので、市民環境部としても、町内会等がどうやって回収をするか、もう少し様子を見てから回収ボックスについてどうするかを決めていきたいという、良い回答をいただきましたので良かったとは思っていますが、更なる前進をよろしくお願いします。

【参加者A】

消費者祭りの際に、かなり細かく展示をしました。牛乳パック6枚でトイレットペーパー1個ということに対して結構な反響があり、きちんと排出していただいているということを知っています。

【市長】

集団資源回収品目の追加という形で、町内会や団体の方に回収をしっかりと進めていただく流れになると思っております。回収ボックスをたくさん設置するという形になると、回収する作業をする方が必要になりますので、できるだけそこは一定程度に抑えた中で、町内会などいろいろと連携を取って収集し、回収することにより助成をすることになる、そんな仕組みをできるだけ進めていくのが良いということで、今回、集団資源回収品目として追加したものです。

【参加者C】

今日も私の地域で見た中では、雑紙の中に牛乳パックが入っていました。

【参加者F】

もう少しルートに乗せていただければ、きちんと資源の活用ができるかと思います。二重三重の手間になって市の方にお世話になるのではなく、私たちでできることをしたいと思いますので、お願いしたいです。

【市長】

いろいろとご指導いただきながら、良い方向に進めていきたいと思っております。

(その他)

【参加者B】

私たちは高校生向けに、悪質商法に引っかからないようにと契約の知識などについて出前講座を行っているのですが、行っていない学校もあり、市の方とタイアップして行っていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【市長】

社会から子どもを守るのは大切なことですが、学校を卒業するといろいろなことがあります。悪質商法や契約のことなどは学校では習わないので、一回でも聞いているのと全く聞いていないのは大きな違いがありますので、どんどん進めていっていただければありがたいことですので、よろしくをお願いします。

【参加者A】

北海道や札幌では、環境宣言をしています。私も、環境家計簿を仲間と一生懸命つけていますが、排出量が全国よりも多くなっています。灯油の使用時期が多いということも含まれているのですが、少しだけ気にすることによって、CO₂を減らすことも可能です。

釧路は環境に良いというイメージがあります。もっと一層PRをするためにも、釧路も環境宣言をすることを考えてもらいたいと思っています。

【市長】

現実問題、北海道は山林が多いですからCO₂の排出量が少ないですが、個別で見ると燃料の関係もあり多くなっています。これをどういう形で進めていくかというのは、宣言をすると、現実にどういう事業を行っていくかということも問われてきますので、今は国の制度に乗っかりながら、太陽光発電の助成等々を進めているところですので、しっかりと検討してまいります。

（閉会のあいさつ）

【市長】

本日は本当にありがとうございました。

こういった中でお話をさせていただくのは、私にとっても大変勉強にもなりますし、また、考え方をご理解いただけるものと思います。いろいろ意見を言っていただくことが、次なる前向きな方針を考えていく機会になります。誰も何も言わなくなった時には、もうまちは終わってしまいます。逆にたくさん言っていただいた方が、どうやっていきましょうということも話し合えますので、今後ご意見等いただければと思います。

併せて、消費者協会様は北海道の中でも本当に信頼の元で進めていただいているということは、ありがたいこととっておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

本日は本当にありがとうございました。

